

東京バッハ合唱団 月報

[第 628 号] 2014 年 10 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101
Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604
Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 628

October 2014

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

モテット《イエス よろこび》を日本語で歌ってみる 8 月の公開ワークショップ、完了

8 月 9、23、30 日と、土曜日ごとに 3 回にわたって開かれたモテット 1 曲だけの集中練習 (15:30 - 17:30、荻窪教会) が終り、猛暑・台風・豪雨・洪水など、超異常気象の続いたこの夏も、やっと一段落ついたようです。

モテット第 3 番《イエス よろこび》。バッハの合唱好きが一度は歌ってみたいと憧れる名曲の中の名曲 (かつ難曲の中の難曲?) 「Jesu meine Freude」を、わずか 3 日の練習で仕上げ、最終日にはとおして歌ってみようというタフな試みでした。団員の方々は、3 月の《ヨハネ受難曲》公演直後から練習をはじめていましたし、なによりも、ベテランの方々は 4 回、5 回という本番をこなしていますので、このワークショップが初めての機会の参加者も、大勢について歌っていれば、「日本語でうたう」という体験を味わっていただけるはず……、そして興味を感じてくだされば、来年の南相馬公演にも加わっていただけるか、というのが企画者のねらいです。

さて、全国高校野球の記事に押されて、新聞紙上での呼びかけ掲載も幾分おくれてしまい、8 月 12 日の「朝日新聞」朝刊マリオン欄「バッハのモテットを日本語で歌う」だけが PR の手段となりました (第 1 回の 9 日には間に合わず)。また、合唱団関係にもお知らせはしましたが、練習と演奏時間 20 分だけの小コンサートという内容に戸惑われたものか、結果的数字としては、新規の練習参加者 12 名、聴衆約 10 名という、慎ましいもので終わりました (団員の参加は各回 20 名ほど)。

いろいろそのような懸念はあったものの、1 日目、2 日目 (紙上での応募 7 名)、3 日目と、回を追うごとに参加者が増え、熱気もまして、最終日の仕上げのコンサート (8 月 30 日) では、指揮者・伴奏者・合唱で計 41 名の演奏がしっかりと鳴り響いたのです。

始めから終りまで休憩なしに一貫するモテット《イエス よろこび》の出来ばえも、最短距離の練習にもかかわらず、音響豊かで明るい礼拝堂に援けられて、一人ひとり、各個自身で納得のゆく、おちついた仕上がりに至ったことは、まことに幸せでした。

すでにさわやかな初秋を感じさせる気候にも恵まれて、そのあと引きつづいて用意された、団員による

ミニコンサートも、これまで毎夏、野尻湖合宿のホテル内で催された雰囲気そのものを現出して、独唱あり、器楽独奏・合奏ありと、6 種のプログラム内容が展開されました。バッハしか知らないグループではなく、オペラもオペレッタも、フルートもバンジョーも活躍できる多彩な人々の集まりであることで、バッハの裾野は、時空 360 度の拡がりを持てるのです。

新しく参加された方々も、これをご縁に、創立 52 年の「東京バッハ合唱団」をつぶさに体験され、それぞれにユニークな反響を、今後お伝えいただけますよう、たのしみにお待ちしています。

駅近くでの打ち上げ会も、この日の成功に安堵した約 20 人の仲間の寛ぎと喜びに満たされました。さあ、また、更なる磨きをかけたモテットその他のバッハを携えて、1 年後 (8 月 22 日) の南相馬コンサート (第 112 回定期演奏会) を目指し、新鮮な一年を始めてゆきましょう。



■ ワークショップ・練習風景 (8/30、荻窪教会)



■ ワークショップ・仕上げ小コンサート (同上)

ワークショップ参加者からのお便り

小沢 仁 様 (テノールで参加)

昨日は有難うございました。

3日間のワークショップに参加させて戴き、とても勉強になりました。ドイツ語で何度も歌っている曲でしたが、日本語の歌詞は新鮮で、口の筋肉などの使い方が違うと実感しました。自然にひとつひとつの言葉をお客様に伝えたくなり、つい歌い過ぎた所もあったかと思っておりますがご許し下さい。

指揮の大村先生も、想像していた通り本当にバッハがお好きなのだと感じました。歌っている時に時折、幸せそうな顔を拝見できてこちらも嬉しくなりました。

今後も歌わせて戴きたいのはやまやまですが、今は時間的にちょっと無理なので、いずれ機会があれば参加させて戴きたく存じます。

先生始め皆様に宜しくお伝え下さい。貴団の発展をお祈りしております。



小出 佳子 様 (アルトで参加)

先週、貴団ワークショップに参加させていただきました小出と申します。

本日も参加を愉しみにしておりましたが、仕事の都合にてどうしても伺うことができなくなりました。いろいろとお世話頂きましたのに、申し訳もございません。

職務上^(*)、突発にて予定に支障を来すことがどうしてもあり、お稽古事などはずっと諦めてまいりました。先週皆様と共に歌わせて頂いたひとときは、モテットの旋律と共にいつまでもわたくしの胸に残ることでしよう。心から感謝申し上げます。

貴団HP、月報は大変興味深く拝見しております。また今後は、貴団の演奏会は是非拝聴に伺いたく存じます。

大村恵美子先生、団員の皆様がお健やかに過ごされますようお祈り申し上げます。

^{*} 小出様は、都内の病院での、医師支援部心臓血管外科担当のご勤務とうかがっています。



●当ワークショップの3日間「皆出席」者が23名!!

ソプラノ: 荒井、小口、米山(以上団員)

アルト: 村瀬(参加)。小野、風岡、佐藤、三上、室田(団員)

テノール: 小沢(参加)。大村、小海、村山、宮城(団員)

バス: 上原(参加)。鈴木、千葉、松尾、室田、森永、米山(団員)

指揮: 大村恵美子、伴奏: 鈴木真帆

(ただし8/30の伴奏者は小坂友紀子さん)

第111回定期演奏会

～3.11 被災地に贈る、バッハのクリスマス音楽の花束～



[日時] 2014年12月13日(土)、19:00開演
(開場18:30、終了21:00予定)

[会場] 府中の森芸術劇場 ウィーンホール

[交通] 京王線「東府中」駅北口、徒歩7分

[曲目] J.S. バッハ (日本語演奏)

- ・《マニフィカト》4つの挿入曲
- ・カンタータ第97番《わがすべてのわざ 主に導かる》
- ・カンタータ第62番《いざ来たりませ 世の救い主》
- ・カンタータ第36番《喜びのぼれいと高き星に》

[演奏]

光野孝子(ソプラノ)、佐々木まり子(アルト)

鳥海 寮(テノール)、山本悠尋(バス)

草間美也子(オルガン)、東京カンタータ室内管弦楽団

大村恵美子(指揮/訳詞)、東京バッハ合唱団

[チケット] 3500円・全席自由席(当日4000円)

取扱い: 合唱団事務局

第111回定期演奏会

～3.11 被災地に贈る、バッハのクリスマス音楽の花束～
ご案内

上記公演まで2カ月余となりました。練習も佳境に入っています。

50周年の特別企画として、2011年初から今春までの4か年、《ロ短調ミサ》、《マタイ》《ヨハネ》両受難曲、《クリスマス・オラトリオ》と、大曲ばかりの練習と公演をつづけてきました。久々の教会カンタータが、ことのほか新鮮に感じられます。

何度かお伝えしたように、この4年は、<3.11>以降の年月に重なります。東京バッハ合唱団の新しい半世紀への歩みは、大震災と巨大津波と福島第1原発事故のショックとともに開始されました。被災地の方々の連帯を模索しながら、いっしょに前へ進んでいこうとしています。

ことしのクリスマスの喜びは、被災地の方々、また故郷を遠く離れた避難先の方々のもとへ、真っ先に届けられますように。

後援会員・団友のみなさま

上記公演へのご招待状を、当月報に同封いたしました。ご友人・知人、お誘い合わせのうえ、ぜひともご来場いただけますよう、お願いいたします。

定期演奏会の今後

一次々回、第113回定演の曲目の展望

大村 恵美子 (主宰者)

創立50周年記念4大作品連続演奏の完遂、3.11被災地訪問演奏の決定(2015年8月22日)と、私たちの目標が達成され、また新たに確定した今日、これからの具体案は、どのように立てられるのでしょうか。

東京では年を経るごとに、開催すべき演奏会場の希望がすんなりと実現しにくくなり、1年半から2年位前には、会場の抽選に準備していなければ、苦労を背負いこむおそれに直面します。

これまでに何度か月報でも打ち明けてきましたように、当合唱団は高い評価をいただくのと反比例して、経済的困難に悩まされているところです。聴衆の皆様のご期待をありがたく身に浴びながらも、公演の支出を何とか削減して忍ばなければなりません。

そこで、当面は、○演奏会場を大ホールから中ホールへ、○トランペット、ティンパニ等を含む大編成の曲をしばらく見合わせて、なるべく室内楽規模の選曲へ、等々の工夫を続けてゆくこととなります。

また、新しい団員や聴衆の方々としては、まずバッハの有名でポピュラーな曲を日本語で聴いてみたい、歌ってみたい、というのが自然な要求でしょう。でも当合唱団の立場では、50数年間に、それらの、広く愛される曲は、何回も再演してきたものであって、まだ数十曲も手つかずに控えている未発表曲も取り上げて公演し、あわせて楽譜出版をつづけるという使命もあるのです。

つねに存在するそのせめぎ合いの末、来年の第112回定演(福島県・南相馬市民文化会館大ホール)のあとは、もうしばらく東京近辺の中ホールを探し、曲目も、小編成のオーケストラにして、しかも多彩な内容のものをとり揃える努力をつくすことになりました。

* * *

そこで、私の思い至ったのが、バッハのカンタータの中から、あらゆる喜びの機会を寿(ことほ)ぐようなものを、まとめてみようということです。第111定演のサブタイトルが「……花束」だったように、今度もまた「花束」と名付けたい感じのする、色とりどりの4曲ですが、あえて今回はサブタイトルはかぶせません。

①カンタータ第148番《み名の栄光を讃えよ》

Bringet dem Herrn Ehre seines Namens BWV 148

- ・初演：ライプツィヒ、1723年9月19日か。
- ・教会暦：三位一体節後第17日曜日(信徒の日常生活で神の名を讃美しなさい)。

- ・編成：独唱AT、合唱、トランペット1、オーボエ3、弦合奏、通奏低音。(約19分)
- ・演奏歴：当合唱団は初演奏。
- ・使用楽譜：ブライトコプフ日本語版・新規発行(2014年10月)

②カンタータ第40番《地に来ませり神のみ子》

Darzu ist erschienen der Sohn Gottes BWV 40

- ・初演：ライプツィヒ、1723年12月26日。
- ・教会暦：降誕節第2日(クリスマスの2日目用だが、羊飼の馬小屋礼拝にふさわしく、大きく輝かしい栄光よりも、神の子が人間の次元にひそやかに現れた奇跡の恵みを、以後地上のすべてが浴することになる、深い幸福を告げ知らせる)。
- ・編成：独唱ATB、合唱、ホルン2、オーボエ2、弦合奏、通奏低音。(約15分)
- ・演奏歴：定演で2回演奏(1982年、2003年)。
- ・使用楽譜：「バッハ・カンタータ50曲選」既刊。

③カンタータ第16番《主ほめ歌わん》

Herr Gott, dich loben wir BWV 16

- ・初演：ライプツィヒ、1726年1月1日。
- ・教会暦：新年(新年を迎えて神に感謝、平安を祈る)
- ・編成：独唱ATB、合唱、ホルン1、オーボエ2、オーボエ・ダ・カッチャ、弦合奏、通奏低音。(約18分)
- ・演奏歴：定演で1回(2000年)
- ・使用楽譜：「バッハ・カンタータ50曲選」既刊。

④カンタータ第192番《ああ感謝せん神に》

Nun danket alle Gott BWV 192

- ・初演：おそらく1730年秋、ライプツィヒ。
- ・用途(教会暦)：不明(あらゆる機会に通用する。人の一生を見守ってくださる神への篤い感謝)
- ・編成：独唱SB、合唱、フルート2、オーボエ2、弦合奏、通奏低音。(約15分)
- ・演奏歴：定演で2回(1976年、2005年)
- ・使用楽譜：「バッハ・カンタータ50曲選」既刊。

* * *

まだ、第111回、第112回と2回の定期演奏会が終わっていない現在ですので、とりあえず以上をお伝えして、はるかな展望のゆくえを、皆様のお力添えによってひき寄せてゆきたいと願っています。

◆『バッハ コラール・ハンドブック』で、次の番号のコラールを参照してください。

BWV 148	# 13	Auf meinen lieben Gott
BWV 40	# 147	Wir Christenleut habn jetzund Freud
	# 116	Schwing dich auf zu deinem Gott
	# 41	Freuet euch, ihr Christen alle
BWV 16	# 51	Herr Gott, dich loben dir
	# 48	Helft mir Gottes Güte preisen
WV 192	# 96	Nun danket alle Gott

